

# 認知症への理解を深めて目指す

# やさしいまち

認知症になっても安心して暮らせる社会を目指す、全国的な取り組み「認知症サポーターキャラバン」を知っていますか。豊明市は認知症への理解がある「やさしいまち」づくりを目的に、認知症カフェ普及イベントを開催。市民の協力によって、少しずつ活動の輪を広げています。

とよあけオレンジコンサート開催!



マスコットのロバが刻印されたオレンジリング。一步一步着実に認知症サポーターキャラバンが歩む様子をイメージしています

## 認知症に理解あるまちへサポーター養成講座を開講

講座を受けて知識を身につけ、できる範囲で認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーター。講座を修了すると、証としてオレンジリングが授与されます。さらに深い知識を学ぶと、



全児童がオレンジリングを持つ豊明小学校で、6年生を対象にした「やさしい声かけ訓練」。認知症に関わらず、困っている人への対応を考えました

キャラバン・メイトとしてサポーター養成講座の講師になれます。豊明市は平成28年、豊明市南部地域包括支援センターに認知症支援事業を委託。支援センターは普及啓発を目指し、サポーター増加のため動き出しました。

南部地域包括支援センター認知症地域支援推進員の浦野みどりさんは「キャラバン・メイト養成講座を受けるには市外へ足を運ばなくてはいけない場合が多く、ハードルが高く感じられるのが問題点でした」と話します。市在住の7人ほどのキャラバン・メイトに協力を仰ぎ、まずは豊明市でサポ

ーターと、キャラバン・メイト養成講座の開催を企画。9月には市内でサポーター養成講座を開くことができました。初回で集まったのは約200人。その後キャラバン・メイト養成講座を開催すると、30人ほどが集まりました。

有志が「つなぐオレンジリング」を目指せ、サポーター1万人！

と団体を命名。「できる時にできる人」という約束のもと、活動を続けています。「座学だけでは分りにくい」という意見が出ると、講座の内容をより分かりやすく、興味を深めてもらえるよう工夫。なかでも好評なのは寸劇です。認知症当事者に対して、つい感情的になる場面を第三者の立場で見てもらい、適切な対応が必要だと実感してもらうのが狙いです。

小学校でも、キッズサポーター養成講座を開催。1回きりで終わらず、フォローアップもしています。受講した子どもたちからは、「困っているお年寄りがいたら助けてあげようと思った」「認知症の人の手伝いができるようになりたい」と前向きな意見が出ています。市役所職員や地域の団体からも

声がかかり、年々講座の回数が増加。昨年度は約20回開催し、1065人のサポーターが誕生しました。今年度は約40回を予定。受講者数は2000人以上を見込んでいます。2018年10月時点で、サポーターは6500人超。来年度で1万人達成を目指しています。

は認知症カフェの雰囲気や体験できます。ステージ発表では、地域に6カ所あるそれぞれのカフェの特徴を紹介。パネルによる説明もあり、認知症カフェを身近に感じられる企画が充実しています。より気軽に足を運んでもらおうと、当日はコンサートも開催します。認知症当事者とサポーターのコンビによる、フォークデュオ「ヒデ2」がゲストで登場。豊明小学校キッズサポーターの子どもたちがタンバリンやカスタネットなどを持って一緒に演奏し、イベントを盛り上げます。

若い世代も一緒に盛り上げるオレンジコンサート開催

「認知症」という言葉には、あまりいい印象がないかもしれませんが、あえて「認知症カフェ」と打ち出しています。認知症当事者の言動は一見不思議に思えても、当事者なりの考えと感情があります。それを理解し受け入れ、見守

### information

健康長寿のひけつ とよあけオレンジコンサート  
～私のまちの認知症カフェ 1日だけの認知症カフェを楽しみませんか～

[とき] 3月3日(日)午後1時～4時  
[場所] 中央公民館ホール(市役所隣接)  
[料金] 参加無料・要申し込み・定員200人  
[申し込み先] 豊明市南部地域包括支援センター ☎0562-96-0808  
健康長寿課地域ケア推進係 ☎0562-92-1261



見どころ  
第1部 認知症カフェの紹介  
市内6カ所の認知症カフェの役割と活動を紹介します。認知症に馴染みがない人でも、認知症カフェを身近に感じられます。  
第2部 オレンジコンサート  
ヒデ2による楽しいトークと心温まる音楽で、楽しいひと時を過ごしましょう。

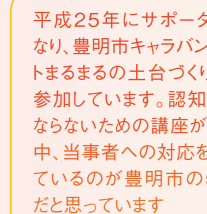
その他、情報コーナーや相談ブースを設置。介護に役立つ粗品もプレゼントしています!

## 豊明市キャラバン・メイト まるまるの皆さんの思い



小菅もと子さん

平成18年にキャラバン・メイトになり、他市町で活動していました。地元豊明では参加型の講座を提案。サポーターの3割を学生が占める、珍しいまちになりました。認知症が受け入れられる環境を広めたいです



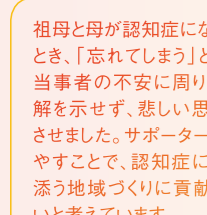
高田由美さん

平成25年にサポーターとなり、豊明市キャラバン・メイトまるまるの土台づくりから参加しています。認知症にならないための講座が多い中、当事者への対応を伝えているのが豊明市の特徴だと思っています



野田勝也さん

ボランティア活動で地域に貢献したことが自分に返ってくると考え、「金もうけより、心もうけ」をモットーに、ボランティア活動に参加してきました。活動が「やさしいまち」に近づく一歩となるように願っています



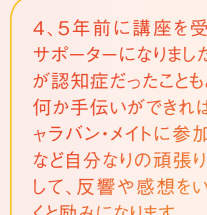
浅井卓代さん

祖母と母が認知症になったとき、「忘れてしまう」という当事者の不安に周りが理解を示せず、悲しい思いをさせました。サポーターを増やすことで、認知症に寄り添う地域づくりに貢献したいと考えています



渡邊ヤス子さん

10年前に豊明市役所主催の講座に参加。その後、南部地域包括支援センターの講座で劇を見て、知識だけでなく理解してもらうための工夫に感動しました。視覚的に伝えられる講座を考えています



今村シズ子さん

4、5年前に講座を受けてサポーターになりました。母が認知症だったこともあり、何か手伝いができればとキャラバン・メイトに参加。劇など自分なりの頑張りに対して、反響や感想をいただく励みになります



松下昭和さん

介護業界で働いており、浦野さんの紹介があって2期の講座に参加しました。ボランティア活動を通して、人の役に立てるのはもちろんですが、いろんな人とつながって触れ合えるのがやりがいです



1.豊明市キャラバン・メイトまるまるの皆さん。依頼が入ると、20人ほどのメンバーの中から都合が合う人たちが担当します 2.当事者でなくても利用できる認知症カフェ。会話を楽しんだり、認知症に関する相談をしたりできます。クリスマスにはハンドベル演奏など、時期によってはイベントも開催 3.認知症サポーター養成講座の所要時間は60分から90分。キャラバン・メイト養成講座は6時間かけて、サポーターの役割やサポーター養成講座で伝えるべきことを学びます